

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472603149
法人名	株式会社 日本アムニティライフ協会
事業所名	グループホーム 花物語 さがみ
訪問調査日	平成 19 年 8 月 23 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 10 日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 9 月 4 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1472603149		
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	グループホーム 花物語 さがみ		
所在地	〒228-0827 神奈川県相模原市磯部156-1 (電話) 046-259-2223		
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成 19 年 8 月 23 日	評価確定日	平成 19 年 10 月 10 日

【情報提供票より】( 19 年 6 月 22 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 2 人	非常勤 21 人 常勤換算 10 人

### (2) 建物概要

建物構造	(木造)造り
	2 階建ての ( 1 ) 階 ~ ( 2 ) 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 100,000 円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 252,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要 ( 7 月 20 日 現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	総合相模厚生病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは相模原市の南部に位置し、近くに相模川もあり、ホームの周りには田圃や野菜畑などもあり、自然に恵まれた環境にあります。また、ホームにもいろいろな野菜を栽培している菜園を有し、収穫期には利用者も手伝い、採れた野菜を食材として利用しています。  
平成17年12月に設立された新しいグループホームであり、利用者が自分らしさを発揮できるようにすることをモットーに職員一同サービスに努めています。新しいこともあり、地域に密着したホームを目指し近隣住民との連携を優先課題として、いろいろな機会を捉え交流、連携を図ろうと努力しています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回がはじめての外部評価です。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価に当たり、会議などで評価(自己評価・外部評価)意義を説明し、職員に自己評価票を配布し、自己評価を行っています。外部評価は今回が初めてですが、評価結果を真摯に受け止め今後のサービスの質の向上に活かす努力をしています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、今年から開催され、第一回目を6月末に行いました。ホームの歩みや、運営推進会議の目的や意義などが話し合われました。ホームとしては、近隣の人たちの協力が不可欠であることを再認識し、今後の運営推進会議が地域との交流、連携に寄与することが期待されます。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の訪問時に意見・要望・不満等を聞くよう心掛けるほか、意見箱も設置しています。また、運営推進会議で得られた家族等からの意見をホームの運営に活かすようにしており、毎月の会議(スタッフ会議)でも話し合いがなされています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	当ホームの開設が間もない事もあり、現時点では、管理者は運営推進会議を通じ地域との交流を図っています。また、自治会にも参加し、自治会主催の行事などにも積極的に参加しています。食材などの日常品も近隣のスーパーや商店で購入し地域との交流に努めています。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	想い(理念)を述べている五つの四文字熟語中には直接地域と関連しているものは見当たらない。しかし、利用者がその人らしく、それぞれが持っている能力を十分発揮できることを目指す理念を作り上げています。		地域との連携、交流について当ホームでは真摯に考えています。そのことをより明確にするためにも理念の中に地域との密着を示す理念を掲げることが望まれます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月開催されているスタッフ会議で理念を全員で読み合わせし、共有化を図っています。また、職員ヒアリングでも、職員は理念である「以心伝心」「誠心誠意」を意識しサービスにあたっています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当ホームの開設が間もない事もあり、現時点では、管理者は運営推進会議を通じ地域との交流を図っています。また、自治会にも参加し、自治会の主催の行事などにも積極的に参加しています。食材なども近隣のスーパーなどで購入し地元との交流に努めています。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の外部評価の受審に当たり、会議などで評価(自己評価・外部評価)意義を説明し、職員に自己評価票を配布し、自己評価を行っています。外部評価は今回が初めてですが、評価結果を真摯に受け止め今後のサービスの質の向上に活かしたいとの事です。		
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、今年から開催され、第一回目が6月末に行われました。初めてのことであり、ホームの歩みや、運営推進会議の目的や意義などが話し合われました。ホームとしては、近隣の人たちの協力が不可欠であることを再認識する場となりました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現時点では、主として事務的なことで接しているのみで、行政との連携が十分行えているとは言えない状況です。		利用者の苦情や相談などの課題解決には、行政の理解や支援が必要不可欠です。そのためには日常的に行政と接し、ホームの考え、実態をよく知ってもらうことが望まれます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態などの家族への報告は、家族の訪問時に行っています。来訪の少ない家族には毎月の発送物(請求書など)と一緒に手紙で報告しています。また、緊急の場合には電話で連絡合っています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階の玄関に「意見箱」を設置し、家族や利用者の意見・要望・不満等を聞くようにしています。また、家族の訪問時にもホームに対する要望等を聞くように心掛けています。運営推進会議を有効に利用するため、そこで得られた家族等からの意見がホームの運営に活かすようにしています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力避けるようにしていますが、現実的には異動や転職で職員が代わっています。代わる場合には、利用者へのダメージを少なくするため、引継ぎがスムーズに行えるように勤務体制ごとに2日間、述べ日数で6日間後任者とペアで勤務に入っています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームとして明確な研修計画は持っていないが、現実には行政の研修や県央グループホーム連絡会などの相互研修などを行っています。必要に応じ、中堅クラスで年3～4回参加しています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームで形成している県央グループホーム連絡会に参加し、同業者との情報交換、連携などネットワークを構築しています。また、同法人である花物語あつぎとも相互交流を行いサービスの質の向上に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>希望者には2泊3日の体験入居もありますが、利用予定者の家族には、必ず事前にホームへ来てもらい、ホームの雰囲気などに馴染んでもらっています。それに並行しアセスメントを行い、このようなことを経て、入居が決定される仕組みになっています。その後職員には利用予定者の情報を提供し、家族や利用者が不安なく入居できるような環境づくりを行っています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者は、一緒にお茶を飲んだり、散歩をしたり、あるいは食事の用意を手伝ってもらったりしながら喜怒哀楽を共にし、お互いが支えあう関係を構築しています。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの気持ちを受け入れ、以心伝心、誠心誠意という思いで対応しています。例えば入居者の電話をかけたいという要望を大事にし納得される対応をしています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>パートを含めたスタッフ会議でカンファレンスを行い記録し、一人ひとりの状態の把握に努めています。ゆっくり過ごしてもらいたいという家族の希望を取り入れ計画に反映しています。</p>		
		現状に即した介護計画の見直し			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族を交えての話し合いは、現実的には困難な状況にあります。利用者の状態の変化に即して介護計画の見直しを行い、介護計画を作成しています。		計画の見直しは図られていますが、見直しに対する家族の了解を実行前に得られることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人ひとりの希望を取り入れ、散歩や外出を行っている。又、7月からは訪問看護との医療連携体制を活かして、一人ひとりの状態を把握し生活の継続につなげています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームでは利用者ごとのかかりつけ医を把握し連携を図っています。本人や家族の希望を大切に、家族が原則として付き添いを行っている。又、緊急の受診の際にはかかりつけ医に受診しています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の対応については、入居時に家族と話し合い双方確認しています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には採用時にプライバシーの確保、個人情報の取扱いなどについて研修を行っています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れを決ったものとしなくて、入居者の状況に応じて、希望に沿ってゆったりと時間が流れるようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者はスタッフと献立を決めたり、スタッフと一緒に包丁を使って野菜を切ったりしている。食事後、立ってお茶を入りに行くのをスタッフが見守っている。スタッフは入居者と同じものを食べ、会話を楽しみながら食事しています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は2時から5時半の間と決められている。隔日入浴であるが、希望すれば毎日入浴できる。又、同性介助も希望できます。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度をスタッフと一緒に包丁を使って食材を切ったり、ケーキ作りをスタッフと行ったりしているほか、各入居者の生活歴に応じた仕事をしています。又、外出時には、行き先を入居者に相談して決めたりしています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食料の買出しにスタッフと一緒にいった時に好きな物を買ったり、玄関前の椅子に座って過ごしたり、車椅子で庭の花を見に行けるように対応しています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家庭的な雰囲気を尊重し、施錠は夜6時から朝8時までで、日中は自由に出入りでき、鍵をかけないケアに取り組んでいます。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携をとり避難訓練を行い、その際入居者の避難誘導方法を具体的に受けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量の個別記録があります。献立表は前もって作らず、その日の状況や入居者の希望等を聞いて作っています。		献立表は前もって作られていないが、調理後に作られています。それを基に栄養バランスはどうかスタッフが共有できるようにすることが期待されます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい空間で、時間帯に合わせたBGMを流しています。壁には、簾にスタッフと作った朝顔が飾られ涼しげな雰囲気を作り出しています。訪問時には窓いっぱいひまわりが咲き、季節を自然に感じる配慮がされています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのもを持ち込むことは自由で、仏壇や、ひ孫の写真を飾っている入居者の方、ベッドと使い慣れた鎌倉彫の小箆筒以外何も置いてない方など、各自が自分に合った居室を作っています。		

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム花物語さがみ
(ユニット名)	大地
所在地 (県・市町村名)	神奈川県相模原市磯部156-1
記入者名 (管理者)	井上 順子
記入日	平成 19 年 7 月 23 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	五つの四文字熟語により、介護に向かう姿勢を、表している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一ヶ月に一回のスタッフ会で、毎回皆で、読み、確認しあう。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議で、伝えている。玄関に掲示。家族会で、つたえる。		地域の方に、もっといらして頂けるよう、運営推進会議もふくめ、見学会などを、予定している。又地域の方が気楽に着ていただける環境を作り、理念を知って頂き、理解して頂けるように、取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩・買い物などのときは、挨拶を欠かさない。お隣の畑から、果物などいただくことがあり、とても感謝しています。		行事だけでなく、日常的に交流できるよう、これから取り組んでいかなければ行けない。ホームの庭でバーベキューなどを、おこないたいと、思っています。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事には、出来る限り、参加させていただく。(お祭り、盆踊り、地域清掃など)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	今は、とくに行っていません。		2ヶ月に1度、コーラスサークルによるコンサートをおこなっていただいている。ご近所のかたにも声をかけいらして頂けるようにできればと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	今回、初めて外部評価を受けるに当たり、評価して頂いたことを、率直にうけとり、次回の評価につなげたいと思います。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	まだ評価を受けていないので、今後の運営推進会議において、報告後いただいたご意見は、うけとめて、これからのホームの運営にいかして行きたいと思います。		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	今は、特にはありませんが、今後どのように連携をとっていかるか、考えてゆきたいと思います。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	今のところ、ありませんが、必要に応じて、支援していきます。		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	日頃から、情報を集め、必要に応じて、対応して行きたいと思います。		今後、スタッフ会等での研修で取り上げて行きたいと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・ご家族の不安を取り除けるよう、たくさんの質問を頂きお話を頂くことが、大切と思います。又伺ったお話は、アセスメントとして、こんごのケアにいかして行きます。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	傾聴の姿勢の大切さは、スタッフ会等機会のあるたび、話している。外部者へ表せる機会については、今後の課題です。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会にいらした折に、お伝えできるよう、連絡ファイルを、設けました。必要な情報は、毎月の発送物と一緒に送っています。急な連絡が必要な場合は、そのつど電話等で、連絡し記録に残しています。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を、玄関に置いています。個別に対応させて頂くこともあります。スタッフ全員に連絡が必要な場合は、1週間日報に記録または業務連絡にて、申し送りしています。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会・面談等でお話を伺い、おたがいに良いと思われる方法を考えます。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な要望には、できるだけ対応しています。(受診対応など)しかしかぎられた人員のなかでは、全て応じられるとは言えず、今後の課題です。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は、最小限の範囲で、行っています。また慣れたスタッフの退職は、入居者様・スタッフ共に、負担のかかることで、出来るだけないようにしたいとは、おもいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	相互研修・認知症介護基礎研修等の受講		今後、認知症介護基礎研修は、全員に受けて頂きたいとおもっています。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会で、昨年度は、相互研修を行い、参加スタッフにとっても好評でした。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	シフト作成する際、勤務希望は出来る限り、希望に沿うようにしています。必要に応じて面談等で対応します。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフ会・面談等においての、話し合い。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前から、利用者・ご家族とお会いして、お話を聞く。(アセスメント) 記録し、入居の前にスタッフ全員に読んで、把握してもらう。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者・ご家族と、面談の機会を持ち、不安を取り除けるよう質問等には、きちんと対応する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話の中で、どのような支援が必要かを、見極める。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を行うこともあります。2泊3日ほどの間で、こちらの生活が、会うかどうかを、ご家族にも判断していただいています。		入居の前より、時々いらして頂き、お茶をご一緒するなど、段階を追って、慣れていただくことも必要かとおもいます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	キッチンと一緒に立ち、食器洗い・調理の下ごしらえなどを行う。理念のひとつである喜怒哀楽を大切に、表情豊かに暮らしたい。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り、受診介助は、ご家族にお願いしています。そのことで、ホームへいらして頂く機会が増え、こちらでのご生活をご覧いただいたり、スタッフとのコミュニケーションも増える良い機会と思います。受診後は、結果をお聞きし、スタッフ全員が、受診報告により、情報を共有できるように対応しています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	特に面会時間等は、きまりが無く、いつでもいらして頂けるよう、配慮しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特にはありません。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒にお茶を飲み、会話に入るのも、大切な仕事と、思います。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去され、亡くなられたご利用者のご家族が、時々遊びにこられます。これからもそのような関係を、大切にしていきたいと思えます。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家に帰りたいとの訴えがつかいご利用者には、気持ちが落ち着くよう、会話・散歩等に対応しています。ひとりひとりの想いや希望を把握し、その人らしく過ごせるよう対応しています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフ全員が、アセスメントにより、入居以前の生活を、把握している。又、ご家族との会話から、好みや生活歴を知ることが出来る。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりのできる事を大切にして、一緒に行うようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会でカンファレンスし、出た課題と、日頃の生活の中から出た意見をもりこんだケアプランを作成するよう、心掛けている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現時点では、3ヶ月ごとの見直しを、行っている。今後必要ならばあいには、その都度のみなおしが必要と、おもいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・カンファレンスでの情報を基に、見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議へのご協力、又これから、避難訓練に消防署からいただけるよう、相談していきたいと思っています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は、おこなっていない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は、おこなっていないが、今後必要が生じた場合は、行って行きたいとおもいます。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談のある場合は、その都度対応しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて、受診時付き添い、こちらでのご様子をお話したり、しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在は、行っていません。訪問看護ステーションとの連携を計画しています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後、ご家族との連絡を、常に取り、お見舞いに伺い、馴染みの状態を保てるよう、支援します。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、ご家族に送付し、同意をいただいている所です。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、準備を、すすめています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	必要があれば、支援させていただきます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	一人ひとりにあった声掛けを心掛けている。また顔馴染みではあるが、プライドを傷つけない様、気をつけている。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	出来る限り、希望をお聞きするようにしています。質問をするときは、具体的に答えやすいような、質問の仕方を心掛けています。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	1日の流れについては、3回の食事・入浴など、おおまかな日課以外は、決まりはありません。そのときの気持ちに応じた生活を、して頂くよう心掛けています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	ご家族と一緒に馴染みの理美容店に行かれる方もいらっしゃいますが、ホームとしては、毎月の訪問理美容をお願いして、ご希望される方の支援をおこなっています。お化粧品は、ご自由にしていただいています。	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	可能な限り食事の準備・後片付けを一緒に行っています。お手伝いして頂けるような対応を心掛けています。	食事作りを共に行うという意識を高めたい。
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	可能な限り支援しています。タバコについては、スタッフが、ライターの管理をさせていただいております。喫煙のご希望があるときは、スタッフが、付き添います。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、見守りを行う。また介助の必要・不必要をみきわめ、介助の必要な方には、さりげなく介助できるよう心がける。通常のパターンと違いが見られる場合は、水分の不足・便秘・下痢等を疑い対処している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきの入浴をしていただけるよう心掛けています。毎日の入浴を希望される方には、そのように対応させて頂いています。また入浴の拒否のある方には、声掛け・タイミングを計るなどで対応しています。時間の希望がある方には、出来る限り対応していますが、スタッフの状況により100%できては、いません。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中・夜間含めデイルーム・居室ほかお好きな場所で、過していただいております。特に消灯時間は、ありません。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月2回のレクリエーションにて生け花・習字・などを実施。散歩・ドライブにて気分転換を図っています。食事の準備・洗濯物たたみ・掃除・買い物等ご利用者と一緒出来ることをたいせつに支援していきたいと思っております。		現在 レクリエーションは日程を決めて実施していますが、日々の中でランダムに実施していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと、金銭管理が可能な方は所持していません。御自身で買い物されることもあります。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・ドライブ・敷地内の裏の畑に出たりと屋内だけのお過ごしにならぬ様、支援しています。畑を作り、今の時期は、夏野菜の収穫を、ご一緒に楽しんでいます。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事企画として御家族も含め外出する様 支援しています。(ピクニックで、お弁当を食べたり、桜・バラ・アジサイ等の花見)		個々のニーズを把握し、行事企画を実施していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要であれば携帯電話の所持を支援しています。電話を掛けたいとの希望のある場合は、そのつど対応しています。お手紙を書けるかたは、少ないですが、希望により、ポストへ投函などは、しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に決まりはなく、いつでも面会して頂いています。ご家族の面会は、こちらの生活を見ていただく良い機会であり、スタッフ全員気持ちよい対応を心がけています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアについては、スタッフ会ほか機会のあるたび、話しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中 正面玄関の鍵は開いており、自由に入出入り可能です。居室の鍵は、スタッフが掛けることは、ありません。外へ出て行かれた場合は、気を配っています。敷地の中は、自由に散策していただいております。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者様の所在を把握する様 常に努めています。また常に、状態・様子を把握し、安全にお過ごしいただけるよう、配慮しています。		全ての職員への意識の改善。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品・洗剤は、管理しています。異食行為のある方は、見守りにより対応しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒には、障害物の撤去。食事の見守り。服薬の確認。利用者の所在確認。調理時の火の元の確認。ライターの管理等。		全ての職員への意識の改善。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対応マニュアルはあるも全ての職員が対応できるとはいえない。		応急手当・救急対応時の訓練の実施
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内での訓練は、おこないましたが、課題が多く、今後消防署の協力をいただける様にしたいと思います。		今後ご近所からの支援をいただける様、運営推進会議だけではなく、計画が必要とおもいます。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	問題・課題が出た都度、個々に対応しています。どのような暮らしを必要としているか、ご家族とともに、ご利用者にとって、一番良い方法を考えたいと思います。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックによる数値の変化、体調の変化や異変の発見の際は速やかに報告・対応しています。ご家族への報告、受診の必要性については、その都度対応しています。他のスタッフへの情報は、申し送り・記録等で、対応しています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフにより服薬に対する意識には、差が見られる。薬のセット、服薬確認については、スタッフ会・業務連絡で、注意している。		スタッフ全員の服薬に関する意識の向上を図りたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックにより、便秘の状態にある場合は、水分摂取量、食事摂取量をチェックし、その都度対応しています。牛乳を含め水分補給・繊維の多い食物の摂取など、様子を見ながら、下剤の服用も検討します。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは、一人ひとりの状態・自立度に応じおこなっています。就寝前のポリデントの使用については、個別に対応しています。歯科受診の必要な方については、週1回の歯科往診を、受けていただいております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量のチェック、食事摂取量のチェックにより、個別に対応しています。不足していると思われる方には、ポカリ等をお勧めしたり、食事量については、捕食を検討し、召し上がっていただいております。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事・おやつの前の手洗いは、必ず石鹸を使用し、使いきりのタオルで拭いていただいております。タオルは、使用后漂白剤で殺菌し洗濯をしています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾の消毒・殺菌は、こまめに行い、食器の殺菌、まな板・調理器具のアルコール消毒、キッチン内の専用エプロンの使用など。買い物はこまめに行くようにし、食材の消費期限に注意する。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は、玄関の鍵は、掛けません。玄関まわりは、ご家族の協力を得て、花を絶やさないよう明るい雰囲気作りを、心掛けています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然豊かな環境の中、周りから特に不快な音はなく、静かに生活していただいております。季節ごとに壁飾りを、工夫したり、行事の写真を、貼るなど雰囲気作り心掛けています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりになれる空間は、居室のほかには、ありません。しかし、ソファに座り、ご利用者同士が会話されることは、日常よくあります。また、廊下にベンチを置いたり、空間作りは、工夫しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居のときに、居室に入る範囲であれば、自由にお持ちいただきしております。それぞれ工夫されお過ごしのご様子です。仏壇をおもちのかたもいらっしゃいます。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇の使用、清掃時の換気、居室・デイルームの温度設定等に気を配り、健康に注意しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動きやすく、障害物のない、しかし適度につかまるところがあるような、空間が理想と思っています。まだ工夫が必要と思います。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	デイルームにホワイトボードを置き、今日の日付けと、スタッフが季節のイラストなどを書き、日付けと季節を感じていただきたく、工夫しています。また、一日の日課は、決まってはいたないが、時間をかんじていただくためにも良いとの想いで、午後3時にラジオ体操を行い、お茶を召し上がっていただいています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関にベンチ・椅子・テーブルを置き、くつろぎの空間作りを工夫しています。裏庭に畑を作り、ご利用者と一緒に収穫を楽しんでいます。建物の周りは、歩いてまわれるスペースがあり、自由にあるいていただいています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

月2回、レクの日を設け、アレンジフラワー・手芸・歌・習字など、ご利用者にえらんでいただき、大地・青空合同でたのしんでいただいております。2ヶ月に1度、コー

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム花物語さがみ
(ユニット名)	青空
所在地 (県・市町村名)	神奈川県相模原市磯部156-1
記入者名 (管理者)	井上 順子
記入日	平成 19 年 7 月 23 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	五つの四文字熟語により、介護に向かう姿勢を、表している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一ヶ月に一回のスタッフ会で、毎回皆で、読み、確認しあう。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議で、伝えている。玄関に掲示。家族会で、つたえる。		地域の方に、もっといらして頂けるよう、運営推進会議もふくめ、見学会などを、予定している。又地域の方が気楽に着ていただける環境を作り、理念を知って頂き、理解して頂けるように、取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩・買い物などのときは、挨拶を欠かさない。お隣の畑から、果物などいただくことがあり、とても感謝しています。		行事だけでなく、日常的に交流できるよう、これから取り組んでいかなければ行けない。ホームの庭でバーベキューなどを、おこないたいと、思っています。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事には、出来る限り、参加させていただく。(お祭り、盆踊り、地域清掃など)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	今は、とくに行っていません。		2ヶ月に1度、コーラスサークルによるコンサートをおこなっていただいている。ご近所のかたにも声をかけいらして頂けるようにできればと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	今回、初めて外部評価を受けるに当たり、評価して頂いたことを、率直にうけとり、次回の評価につなげたいと思います。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	まだ評価を受けていないので、今後の運営推進会議において、報告後いただいたご意見は、うけとめて、これからのホームの運営にいかして行きたいと思います。		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	今は、特にはありませんが、今後どのように連携をとっていかるか、考えてゆきたいと思います。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	今のところ、ありませんが、必要に応じて、支援していきます。		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	日頃から、情報を集め、必要に応じて、対応して行きたいと思います。		今後、スタッフ会等での研修で取り上げて行きたいと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・ご家族の不安を取り除けるよう、たくさんの質問を頂きお話を頂くことが、大切と思います。又伺ったお話は、アセスメントとして、こんごのケアにいかして行きます。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	傾聴の姿勢の大切さは、スタッフ会等機会のあるたび、話している。外部者へ表せる機会については、今後の課題です。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会にいらした折に、お伝えできるよう、連絡ファイルを、設けました。必要な情報は、毎月の発送物と一緒に送っています。急な連絡が必要な場合は、そのつど電話等で、連絡し記録に残しています。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を、玄関に置いています。個別に対応させて頂くこともあります。スタッフ全員に連絡が必要な場合は、1週間日報に記録または業務連絡にて、申し送りしています。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会・面談等でお話を伺い、おたがいに良いと思われる方法を考えます。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な要望には、できるだけ対応しています。(受診対応など)しかしかぎられた人員のなかでは、全て応じられるとは言えず、今後の課題です。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は、最小限の範囲で、行っています。また慣れたスタッフの退職は、入居者様・スタッフ共に、負担のかかることで、出来るだけないようにしたいとは、おもいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	相互研修・認知症介護基礎研修等の受講		今後、認知症介護基礎研修は、全員に受けて頂きたいとおもっています。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会で、昨年度は、相互研修を行い、参加スタッフにとっても好評でした。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	シフト作成する際、勤務希望は出来る限り、希望に沿うようにしています。必要に応じて面談等で対応します。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフ会・面談等においての、話し合い。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前から、利用者・ご家族とお会いして、お話を聞く。(アセスメント) 記録し、入居の前にスタッフ全員に読んで、把握してもらう。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者・ご家族と、面談の機会を持ち、不安を取り除けるよう質問等には、きちんと対応する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話の中で、どのような支援が必要かを、見極める。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を行うこともあります。2泊3日ほどの間で、こちらの生活が、会うかどうかを、ご家族にも判断していただいています。		入居の前より、時々いらして頂き、お茶をご一緒するなど、段階を追って、慣れていただくことも必要かとおもいます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	キッチンと一緒に立ち、食器洗い・調理の下ごしらえなどを行う。理念のひとつである喜怒哀楽を大切に、表情豊かに暮らしたい。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り、受診介助は、ご家族にお願いしています。そのことで、ホームへいらして頂く機会が増え、こちらでのご生活をご覧いただいたり、スタッフとのコミュニケーションも増える良い機会と思います。受診後は、結果をお聞きし、スタッフ全員が、受診報告により、情報を共有できるように対応しています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	特に面会時間等は、きまりが無く、いつでもいらして頂けるよう、配慮しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特にはありません。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒にお茶を飲み、会話に入るのも、大切な仕事と、思います。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去され、亡くなられたご利用者のご家族が、時々遊びにこられます。これからもそのような関係を、大切にしていきたいと思えます。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家に帰りたいとの訴えがつかいご利用者には、気持ちが落ち着くよう、会話・散歩等に対応しています。ひとりひとりの思いや希望を把握し、その人らしく過ごせるよう対応しています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフ全員が、アセスメントにより、入居以前の生活を、把握している。又、ご家族との会話から、好みや生活歴を知ることが出来る。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりのできる事を大切に、一緒に行うようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会でカンファレンスし、出た課題と、日頃の生活の中から出た意見をもちこんだケアプランを作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現時点では、3ヶ月ごとの見直しを、行っている。今後必要ならばあいは、その都度のみなおしが必要と、おもいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・カンファレンスでの情報を基に、見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議へのご協力、又これから、避難訓練に消防署からいただけるよう、相談していきたいと思っています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は、おこなっていない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は、おこなっていないが、今後必要が生じた場合は、行って行きたいとおもいます。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談のある場合は、その都度対応しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて、受診時付き添い、こちらでのご様子をお話したり、しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在は、行っていません。訪問看護ステーションとの連携を計画しています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後、ご家族との連絡を、常に取り、お見舞いに伺い、馴染みの状態を保てるよう、支援します。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、ご家族に送付し、同意をいただいている所です。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、準備を、すすめています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	必要があれば、支援させていただきます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりにあった声掛けを心掛けている。また顔馴染みではあるが、プライドを傷つけない様、気をつけている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来る限り、希望をお聞きするようにしています。質問をするときは、具体的に答えやすいような、質問の仕方を心掛けています。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れについては、3回の食事・入浴など、おおまかな日課以外は、決まりはありません。そのときの気持ちに応じた生活を、して頂くよう心掛けています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族と一緒に馴染みの理美容店に行かれる方もいらっしゃいますが、ホームとしては、毎月の訪問理美容をお願いして、ご希望される方の支援をおこなっています。お化粧品は、ご自由にしていただいています。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り食事の準備・後片付けを一緒に行っています。お手伝いして頂けるような対応を心掛けています。	食事作りを共に行うという意識を高めたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	可能な限り支援しています。タバコについては、スタッフが、ライターの管理をさせていただいております。喫煙のご希望があるときは、スタッフが、付き添います。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、見守りを行う。また介助の必要・不必要をみきわめ、介助の必要な方には、さりげなく介助できるよう心がける。通常のパターンと違いが見られる場合は、水分の不足・便秘・下痢等を疑い対処している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきの入浴をしていただけるよう心掛けています。毎日の入浴を希望される方には、そのように対応させて頂いています。また入浴の拒否のある方には、声掛け・タイミングを計るなどで対応しています。時間の希望がある方には、出来る限り対応していますが、スタッフの状況により100%できては、いません。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中・夜間含めデイルーム・居室ほかお好きな場所で、過していただいております。特に消灯時間は、ありません。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月2回のレクリエーションにて生け花・習字・などを実施。散歩・ドライブにて気分転換を図っています。食事の準備・洗濯物たたみ・掃除・買い物等ご利用者と一緒出来ることをたいせつに支援していきたいと思っております。		現在 レクリエーションは日程を決めて実施していますが、日々の中でランダムに実施していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと、金銭管理が可能な方は所持していません。御自身で買い物されることもあります。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・ドライブ・敷地内の裏の畑に出たりと屋内だけのお過ごしにならぬ様、支援しています。畑を作り、今の時期は、夏野菜の収穫を、ご一緒に楽しんでいます。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事企画として御家族も含め外出する様 支援しています。(ピクニックで、お弁当を食べたり、桜・バラ・アジサイ等の花見)		個々のニーズを把握し、行事企画を実施していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要であれば携帯電話の所持を支援しています。電話を掛けたいとの希望のある場合は、そのつど対応しています。お手紙を書けるかたは、少ないですが、希望により、ポストへ投函などは、しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に決まりはなく、いつでも面会して頂いています。ご家族の面会は、こちらの生活を見ていただく良い機会であり、スタッフ全員気持ちよい対応を心がけています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアについては、スタッフ会ほか機会のあるたび、話しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中 正面玄関の鍵は開いており、自由に入出入り可能です。居室の鍵は、スタッフが掛けることは、ありません。外へ出て行かれた場合は、気を配っています。敷地の中は、自由に散策していただいております。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者様の所在を把握する様 常に努めています。また常に、状態・様子を把握し、安全にお過ごしいただけるよう、配慮しています。		全ての職員への意識の改善。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品・洗剤は、管理しています。異食行為のある方は、見守りにより対応しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒には、障害物の撤去。食事の見守り。服薬の確認。利用者の所在確認。調理時の火の元の確認。ライターの管理等。		全ての職員への意識の改善。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対応マニュアルはあるも全ての職員が対応できるとはいえない。		応急手当・救急対応時の訓練の実施
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内での訓練は、おこないましたが、課題が多く、今後消防署の協力をいただける様にしたいと思います。		今後ご近所からの支援をいただける様、運営推進会議だけではなく、計画が必要とおもいます。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	問題・課題が出た都度、個々に対応しています。どのような暮らしを必要としているか、ご家族とともに、ご利用者にとって、一番良い方法を考えたいと思います。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックによる数値の変化、体調の変化や異変の発見の際は速やかに報告・対応しています。ご家族への報告、受診の必要性については、その都度対応しています。他のスタッフへの情報は、申し送り・記録等で、対応しています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフにより服薬に対する意識には、差が見られる。薬のセット、服薬確認については、スタッフ会・業務連絡で、注意している。		スタッフ全員の服薬に関する意識の向上を図りたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックにより、便秘の状態にある場合は、水分摂取量、食事摂取量をチェックし、その都度対応しています。牛乳を含め水分補給・繊維の多い食物の摂取など、様子を見ながら、下剤の服用も検討します。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは、一人ひとりの状態・自立度に応じおこなっています。就寝前のポリデントの使用については、個別に対応しています。歯科受診の必要な方については、週1回の歯科往診を、受けていただいております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量のチェック、食事摂取量のチェックにより、個別に対応しています。不足していると思われる方には、ポカリ等をお勧めしたり、食事量については、捕食を検討し、召し上がっていただいております。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事・おやつの前の手洗いは、必ず石鹸を使用し、使いきりのタオルで拭いていただいております。タオルは、使用后漂白剤で殺菌し洗濯をしています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾の消毒・殺菌は、こまめに行い、食器の殺菌、まな板・調理器具のアルコール消毒、キッチン内の専用エプロンの使用など。買い物はこまめに行くようにし、食材の消費期限に注意する。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は、玄関の鍵は、掛けません。玄関まわりは、ご家族の協力を得て、花を絶やさないよう明るい雰囲気作りを、心掛けています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然豊かな環境の中、周りから特に不快な音はなく、静かに生活していただいております。季節ごとに壁飾りを、工夫したり、行事の写真を、貼るなど雰囲気作り心掛けています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーター前にベンチを置き、くつろぎ空間を作っています。ソファーに座り、ご利用者同士が会話されることは、日常よくあります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居のときに、居室に入る範囲であれば、自由にお持ちいただきしております。それぞれ工夫されお過ごしのご様子です。仏壇をおもちのかたもいらっしゃいます。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇の使用、清掃時の換気、居室・デイルームの温度設定等に気を配り、健康に注意しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動きやすく、障害物のない、しかし適度につかまるところがあるような、空間が理想と思っています。まだ工夫が必要と思います。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	デイルームにホワイトボードを置き、今日の日付けと、スタッフが季節のイラストなどを書き、日付けと季節を感じていただきたく、工夫しています。また、一日の日課は、決まってはいたないが、時間をかんじていただくためにも良いとの想いで、午後3時にラジオ体操を行い、お茶を召し上がっていただいています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関にベンチ・椅子・テーブルを置き、くつろぎの空間作りを工夫しています。裏庭に畑を作り、ご利用者と一緒に収穫を楽しんでいます。建物の周りは、歩いてまわれるスペースがあり、自由にあるいていただいています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

月2回、レクの日を設け、アレンジフラワー・手芸・歌・習字など、ご利用者にえらんでいただき、大地・青空合同でたのしんでいただいております。2ヶ月に1度、コー